

今年で無事高校生活3年目を迎えた。正直書くことがない。だから、これまでにあったことを書く。面白くはないから気楽に読んでくれ。

話す内容は二年の文化祭の時のこと。まず何をするのか、から始まった。LHRの時間で話し合うが、みんなやりたいことも無く、途方に暮れてしまった。その時、1人のクラスメイトが「ヲタ芸とかどう？」と言った。その一言でみんな興味を持ち、それぞれどういうものなのか、そしてどの曲に合わせて踊るのかを探し始めた。見栄えもカッコよく、初心者でも踊りやすい振り付けを必死に探し、時間ギリギリで決まった。

そのタイミングで、夏休み中はいつ、どこに集まるかも話し合ってた。「みんな初心者で不安かもしれないけど、出来るだけ頑張ろう！」とみんなで言い合ってた夏休みを迎えた。

練習初日。全く予想しない事が起こった。その日は学校での練習で、俺は時間通りに学校に着いた。しかし、みんなからの連絡もなく、来る気配もない。来ることを信じて、ひたすら待った。待ちに待った結果、誰も来ない。俺は諦めて、1人で視聴覚室でひたすら黙々と練習し続けた。次の練習は来てくれるだろうと信じて、その日は帰った。

練習2日目。その日も学校での練習。俺が学校に着く前に、もう既に何人か先にいたが、全員は集まらなかった。もう待っても仕方ないと思い、その日は練習に励んだ。いるメンバーで、各々映像を見ながら練習するが、ヲタ芸なんて今まで「キレイだな」ぐらいの気持ちでしか見てなかった。それを何も知らない人が、さあ踊ってみようなんて無理な話だ。自分は、ダンスが好きでよく動画を見たり、それを真似して踊ったりして、上手くいくことが多かったが、ヲタ芸はいつもやってるダンスとは全く違った。ダンスの種類にもよるが、みんなが思い浮かべるダンスより動きが複雑で、体が柔らかくないと出来ないことがわかった。その時いたメンバーは絶句した。まず、基礎からやろうと基礎練習の動画も見つけ、学年のグループラインにその動画のURLと基礎の動きの練習を家でもやって欲しいと連絡した。その日はどうやったら上手くいくか考えながら帰った。

練習3日目。この日は初めて学校外での練習。事前に音の響きが良くて、人も少なく、それなりに広さがある最適な場所を見つけておいた。さあ、ここから本格的にやっという気合を入れ、待ち合わせ場所に向かった。無事集合場所に着き、時間になるまで待った。少し遅れて1人来た。「お～！ やっと来たか～！ 家でも練習してんの～？」みたいな会話をしながら、他のメンバーを待ったが、30分待っても他のメンバーが来ることは無かった。結局、2人で練習場所まで行って練習したが、ヲタ芸は大人数で構成されており、各個人それぞれ動き方が違うため、曲と動きに合わせることが出来ず、あまり練習にならなかった。正直、この時から上手くいかない、人が集まらない、練習にならないことにイライラしてきてしまった。

人がろくに集まらず、まともな練習が出来ないままに時間が過ぎていった。とうとう自分はグループラインの通話で怒ってしまった。感情のまま「集合場所に集まって練習する時になぜ来ないのか、来ない人は家でも練習しているのか、みんなはどういうふうに考えているのか」を問い詰めた。その電話は約1時間と長い間通話していたが、最初から自分が怒り口調で話していたため、気まずくなり、ほとんどが沈黙だった。いくら聞いても返事が返ってこない、自分はしびれを切らしてこう言った。「今この場で言いづらいのなら次集まる時に話してもらおう。それまでに言う事を考えておいて。それでも次の日来なかったら、俺は知らないよ。」そう言って自分はグループ通話から抜けた。数分後、みんなから個人のLINEで連絡が来た。それは、謝罪の連絡だった。正直ここまでみんなの前で怒ったのは初めてで、相当雰囲気が悪かったんだろう。自分は、感情的になりひたすら言いたいことを言っていただけだから、怒っている時の自分がわからない故に、心配になった。踊るメンバーに傷付けることを言っていないだろうかと。自分も改め個人のLINEで謝罪した。心配にはなったが、わざわざ個人で謝罪をして来てくれたってことは理解してくれたのかなと思った。それなら口調は悪かったとしても、気持ちを言って良かったなとも思った。

夏休み中、最後の練習日。予告していた通りみんながしっかり集まって、各々どう思っているのかを聞いた。みんなそれぞれ、共通して思っていた事があった。それはヲタ芸を甘く見ていたということ。それは自分も納得した。自分も練習初日に思ったからだ。みんなの雰囲気を見ていると、今度こそはやるという感じになっていた。それはヲタ芸をやろうと初めて決めた時以上のものだった。自分もそれを信じて、一緒に残り少ない時間で綺麗なヲタ芸を作ってやろうと心に決め、その日はみんな夢中になり、23時近くまでやっていた。さすがに補導時間のため、その日は解散した。

とうとう夏休みも終わり、本当に時間が無い。それぞれ部活も生徒会もない日の放課後は毎日練習した。みんな筋肉痛になりながら必死に本番前日まで練習した。

ついに本番当日。急遽1人のメンバーが仮面を被ってやりたいといい、登校前にドン・キホーテで仮面を買ってきた。みんな慌てて実際に被って動いて練習した。何も問題なくその状態で踊れた。本番の映像を撮ってもらい、文化祭が終わった後で映像を確認した。その映像を見て、自分は衝撃を受けた。夏休みほぼまともな練習が出来なくて、放課後のみの練習で、あのクオリティまで行けたことにびっくりした。正直、上手いくとは思ってもなかった。他の学年の人や、先生方の評価も良かった。この時に、心から思った。諦めずに、みんなで作ってよかったなど。

この話は、もう今や笑い話。みんなでネタにして遊んでいるぐらいだ。この経験をしてとりあえずなんでも、思ったことは言葉にして言ってみようと思った。それに加え、みんなで本気で諦めずにやれば、どうにかなるって思った。今年の文化祭は何をするんだろうか。これはいい経験だったけど、もう同じ経験はしたくない。今年もいい思い出が出来るよう、学年で楽しくいきたいと思った。これにて自分の思い出話を終わりにする。長々と読んでくれてありがとう。

教室はまちがうところだ

みんなどしどし手をあげてまちがった意見を言おうじゃないか
まちがった答えを言おうじゃないか
まちがうことをおそれちゃいけない
まちがったものをわらっちゃいけない
まちがった意見をまちがった答えを
ああじゃあないかこうじゃあないかと
みんなで出しあい言い合うなかでほんとのものを見つけていくのだそうしてみんなで伸びていくのだ
いつも正しくまちがいのない答えをしなくちゃならんと思って
そういうとこだと思っているからまちがうことがこわくてこわくて
手もあげないで小さくなって だまりこくって時間がすぎる
しかたがないから先生だけが勝手にしゃべって 生徒はうわのそら
それじゃあちっとも伸びてはいけない
神様でさえまちがう世の中
ましてこれから人間になろうとしているぼくらが
まちがったってなにがおかしい あたりまえじゃないか
うつむきうつむきそうっとあげた手 はじめてあげた手
先生がさした どきりと胸が大きく鳴って

どっきどっきと体が燃えて 立ったとたんに忘れてしまった
なんだかぼそぼそしゃべったけれども
なにを言ったかちんぷんかんぷん
私は ことりとすわってしまった 体がすうっとすずしくなって
ああ言やあよかった こう言やあよかった
あとでいいこと浮かんできてくるのに それでいいのだ
いくどもいくどもおんなじことをくりかえすうちに
それからだんだん どきりがやんで
言いたいことが 言えてくるのだ
はじめからうまいこと言えるはずないんだ
はじめから答えが当たるはずないんだ
なんどもなんども言ってるうちに まちがううちに
言いたいことの半分くらいは どうやらこうやら言えてくるのだそうして たまには答えも当たる
まちがいだらけの僕らの教室
おそれちゃいけない わらっちゃいけない
安心して手をあげる 安心してまちがえや
まちがったって わらったり ばかにしたり おこったり そんなものはおりゃあせん
まちがったって だれかがよ なおしてくれるし 教えてくれる
困ったときには 先生が ない知恵しぼって教えるで
そんな教室作ろうやあ